

---

# 月の階段～成長の羽が開くとき～

時雨奏楽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

月の階段〜成長の羽が開くとき〜

### 【Nコード】

N7311Y

### 【作者名】

時雨奏楽

### 【あらすじ】

少年“奏楽希歌瀬”はこの日、素晴らしく最悪な日であった。

だが、それはこれから始まる物語の始まりに過ぎなかった。

## 第一章 \*風に呼ばれた少年\*

“何なんだこれは！！一体お前は今まで何をしてきたんだ！！この役立たずめ！！”

はっっ！！何だ今のは…。

今日は朝から雨だ…。変な夢を見たうえに、いやな予感がする…

ちなみに、俺の名前は奏楽希 歌瀬。

はあ…最近、俺はため息をつくことが多くなった。

と、言うのも昨日4年付き合っていた彼女に振られ、間違い電話が多数。

そして朝、変な夢を見た…。一体何がどうしたというのか…

あ…！！…もう！！…何か全てがめんどくさくなっ  
たな…

そう思った時、誰かがインターホンを鳴らした。

はあ…めんどい時に誰だよ…

…はい???どちら????

(君……死にたくなかったら俺と一緒に来い！！)

えっっ!! ちょ、待てよ!! ……う、うわぁ ……!!

……

(…やっと見つけたんだ…絶対逃がすなよ…)

んう…はっ!! ……ここは…一体…

(おや、お目覚めかね…)

お、おまえは誰だ?? 僕に何の用だ…!!

(…君にはあることに参加してもらおう。相当  
厳しいが君なら大丈夫だろう。)

何のことだ…あることってなんだ!

(落ち着きがないようだ…少し眠るがよい… シュン

)

あっ… (バタリ)

(さ、今のうちに準備だ…いつ起きるかわからないからな。)

……

…ここは…何処かで見たとある気がする…でも…やっぱりわかん  
ねえ…)

“んっ!?? お前は…あの役立たずではないか!! なにしにここに来

た！”

くあいつは…誰だ？…何か俺のことを知ってるようだが…く

（まあまあ、そんなに興奮なさらずにともいではないか。）

“んっ！？貴様は…あの時の！！あの時はよくも俺を利用してくれたな…！！”

（はて？何のことかね…。それよりあれを起動してくれないか。こいつに参加しても

らうことにした。文句はなしで。さ、早く準備してくれないか。時間がないもんでね。）

“くっ…仕方ない。直ぐに準備する…”

（これで、私の望みが現実になるかもな…こいつも成長して、あの幻の羽を開く時が来るのも時間の問題だな…）

.....

…んう…。あれ？さっきと違う場所だ…。ここはどこなんだろう？

（君には今から姫を救い出してもらおう。制限時間内に姫を救い出せたらお前は生きて家に帰ることができる。ただし、もし失敗したら…その時はもう、想像できるよな…帰れないことくらい…）

えっ…。そんな…。急にそんなことを言われても、俺にその、姫を助け出すなんて無理だよ！！俺にそんな力なんて……ないんだから

…。

（お前ならできる。）

そんな…無理だって…

次回…果たして姫を救うことができるのか！

## 第二章 \*忘れていた記憶のカケラ\*

…俺は・・・一体何をしていたんだ…？

はっつ！そうだ…俺は確か、誰だかわかんない人に変なとこに連れてこられて…それで、いきなり、姫を助けるとかなんとか…。

ははっつ…無理に決まってるのに…俺なんか、好きなやつ“笑顔”さえ守れないのに。

・・・バタツ・・・俺、もう無理だわ…姫には悪いけど、ここで諦めよう。

そう言っつて、少年は目をつぶった…。

・・・  
・・・  
・・・

……おい！！おい、お前っつー！！……

ん…誰だ…？？

私は、隣の国の王子だ。お前はここで何をしている！？

何っつて…寝てるに決まってるだろ…（見りゃわかんたろーがー！）

お前こそ何してんだこんなとこで…。

私は、ここにいる姫様に呼ばれてきたのだ。お前はここの兵士か？

はっつ！！？？んなわけねえだろーが！！

まあまあ、そんなにキレることもあるまい。…うわあ！もうこんな時間か！大変だ！遅れてしまう！！で、でわ、これで失礼する。またどこかで会おう…。(ダア……………！！)

そう言っつて王子は走って行ってしまった。俺はまた、眠りについた。

……………どれだけの時間が過ぎたのだろう……………

ん……………あれ？俺はこんなところで寝てたのか…？

ウイイイイン……………何だ！？あ、頭が…う、うわあ！！！！

(…いいか、お前は今日からこの城でアウイールス姫を守るんだ！絶対に守り通すんだぞ！！お前の大好きなアウイールス姫をな……………)

えっつ…！？今のは一体……………？しかも、聞いたことのある声……………俺はもしかしてこの姫を守る兵士だったのか……………？でも、俺にはあんな風に言われる親のような人はいないし……………。

キヤ……………！！

ん！？何だ今の悲鳴は！！！？あっちから聞こえたな……………よしいっつてみるか！

だ、誰か助けて！！誰か……………！！！！

あ、あそこにいるのは…ア…アウィーン姫…？

(姫よ！なぜ私ではなく、あんな奴を選ぶのか！？私の方があんな奴よりも君のことが好きなのに…！！)

えっっ！？あいつは、姫のことが好きなのか…？でも、姫はあいつではなく違うやつが好きで…って、これはもしかや三角関係…！！???

私はあなたのことなど好きではありません！！どうか、お願いします。私のことはあきらめて下さい…！！

(なぜ…。仕方ない。もうこつするしか…。)

プチン…。僕の中で何かが弾けた…。

うおおおおおおお！！！！！！(ダア)

(な、何だあれは…？)

そこのお前！！姫に手を出すな！！姫に指一本でも触れてみな…ぶった切つてやつから…！！

(何だお前？やるのか？この俺と。いい度胸してんじゃん…。覚悟しろ…。)

それはこっちのセリフだつての…

姫は僕が必ず守り通します。信じていて下さい。アウィーン姫…

おりゃああああ!!.....

.....

(ウハア…お、俺の負けだ…バタリ…)

あ!!!

か、勝った……。

どうしてそこまで…？私はあなたのことを知らないのに…

覚えていないだけですよ…。多分昔、俺は姫に会ったことがあると思うんです。俺はあなたを守る兵士でした……。

覚えていないのも無理はありません。俺もさっきまで忘れていたんですから。

も、もしかしてあのお時のおチビさん……？

…!?!ええ。その通りです。覚えてらっしゃったんですね。

あのお時のおチビさんですか!!懐かしいですね。あんなに小さかったのにこんなにたくましくなってます。

……ここで立ち話もなんでしょう。お城へもどられては？

戻ったらあなたとお話できませんし。……あつ!どうか私の部屋に來られてください!そうすればお話の続きもできますし。

いいのですか??こんな私が姫のプライベートルームに入っても!?

かまいませんよ。あなたは私を助けてくれた。借りはきっちり返さねば!ね!!

なら、お言葉に甘えて…

こうして、姫を救助し姫の部屋に招かれる少年。次はどうなるのか・  
・  
・  
・。

### 第三章 \* 本当の真実、お互いの心 \*

失礼いたします。

・・・・・・・・ガチャ・・・・・・・・

お呼びいただきありがとうございます。

ようこそ。我がマイルームへ。まあ、そんな硬くならず気楽に願  
いしますわ。

は、はい・・・・・・・・。

さて、何かからお話ししましょうか？

姫のお好きなことでいいですよ。

んう・・・・・・・・。。。

・・・・・・・・！そういえば、あときの男は一体誰ですか？

えっ、あああの男の方は、前から勝手に隣の国の王子とおっしゃっ  
て、この私のことが好きだったようですね。毎日のようにここに来  
るのもう大変でしたわ。

まあ、これでもうあの男も来ないと思いますよ。

今日はどうもありがとうございました。本当に助かりましたわ。

いえ、たまたま居合わせただけです。でも、助かってよかったです。

ふふ……。また、助けて下さる??

……!どうでしょう。まだわかりません。第一、私はこの兵士ではありませんから……。

なら、なって下さい!私の専属の騎士として!

………。それは、できません。なぜなら俺は違う世界から来たのですから。

えっ!違う世界って……そんな、嘘ですよね……?!

………。嘘ではありません。ここに来るまで、記憶を取り戻すまで、俺は別世界で普通の高校3年生の夏を過ごしていたのですから。あ、高校とはここにはありませんが  
児童達いわゆる子供達が勉強に励む学び舎のことです。……。  
すみません。勝手にべらべら話してしまっ……。

………。いえ。でも、あなたが生きていて本当に良かった。だって、あの時あなたは死んでしまったと思っていましたもの。私を守るために身代わりに……。

えっ!……。すみません。その様なことは、まったくおぼえがありません……。でも、姫がおっしゃっているのなら本当のことだと思えます。多分、ショックで記憶を失くしたのだと思えます。……。

(・・・制限時間クリア・・・か。よし、もう少しだ。種がもう少しで芽吹く・・・) )

では、もうすぐあなたは元の世界に帰ってしまうのですか・・・。  
ええ。ですから、最後に何か思い出を残したいのですが・・・。  
よろしいですか？

・・・！そんな、最後だなんて・・・。

・・・。。大丈夫ですよ。俺がいなくても、姫は何でもできる。  
回りに支えてくれてる人がいる。それに、姫の心にいつまでもいますから。記憶に刻み込んで絶対に忘れなければ、きっとまたどこかで会えます。夢でも、現実でも。

・・・うっ・・・うっ・・・うっ・・・。。

・・・！な、泣かないで！姫には笑顔が一番なのですから。どうか泣かないで・・・。

もう、会えないの？このまま、あなたは元の世界に帰って私ともう、会えないのですか・・・？

・・・。。。

どうして！？どうして何もおっしゃって下さらないの？？あなたはそれでいいのですか？

・・・！！そんなことはない！俺だって、姫にせつかく会えたのにこのまま帰るなんていやだ！！！！だって、俺は・・・。

だって、……何ですか？

くっ……だって、俺は、姫のことが……

『ドツカ                    ン！！！！！！………』

！！！！何だ！？何があつたんだ！？

行ってみましょう！！

ああ！

………タツタツタツ……ガチャ……

な、何だ！？これは！

キヤアアアアア！！！！

ひ、姫、落ち着いて！ここにいて下さい！俺、ちょっと見てきます

！絶対動かないでください！！

あっ！待って！

………タツタツタツ………

どうしましょう………。誰かいないのでしょうか……？

姫様！こっちです！さあ、早く！

・・・??・・・!!はい!“家の者が生きていたんだわ!”

何処ですの??出てきて、今の状況を説明しなさい!

・・・ふふふ・・・。今の状況は・・・こうだよ・・・

キヤアアアアアアア!!!!!

(ふふふ・・・姫を人質にすればきつと種が芽を出し、幻の羽を開かせる・・・。)

誰か　!!誰かいませんか　!

・・・ガチャ・・・

・・・!!!!!な、何だこれ!?なんで、こんなに人が殺されてるんだ・・・!?

(ふふふ・・・それは、私がやったからだよ・・・。)

!!!!!あなたは!あの時の男!!!!!なぜここを襲った!!!

そんなの決まっているじゃないか・・・。姫を私のものにするためさ!!!!!

!!!!!まさか、お前!!!!!

やっと築いたのか?そう、姫はもう、俺のもの。後は姫の心を奪っただけさ・・・。

汚ねえぞ！！姫を返せ！！

それは無理だね！姫を奪うためにここを襲ったのだから！・・・  
ずっと、欲しかった。もつと早くにこうしていればよかったのだが  
な・・・。私は、ずっと姫のことが好きだった！ずっと、子供のこ  
ろからずっとだ！！なのに、姫はこの私を振って、違うやつが好き  
だと言った！我慢がならなかった！！

だからといって、こんな形で姫を奪うのはどうかしてる！こんなこ  
としたら、余計に姫に嫌われるだけじゃないか！！もし、俺が姫の  
ことが好きだったら、こんな形で姫を奪うことはしない！姫が幸せ  
になれるならそれでいいと思う！そういった考えはお前にないのか  
！？

ええ　　い！うるさい、うるさい！！今のお前に何ができる！  
？兵士でもない、武器も持っていないお前に、一体何ができる！？

くっつ！！・・・できることはあるさ・・・。

は？何言ってる・・・

俺にだって、できることはあるって言ってるんだよ！！！！

な、何っつ！！！！！！

うおおおりやあああああああ　　！！！！！！！！

うっ、うわあ！！！！

『ドッカ　　ン！！！！！！！！！！』

.....

んう.....

..... シュウウウ.....

あつ、..... 大丈夫ですよ！？ねえ、返事して下さい！！  
..... ヤダ..... 起きない..... うっ..... うっっ.....  
私、あなたのことが小さい頃から..... 好きでしたのに..... ま  
た、死んでしまったの.....？私は、またあなたを殺してしまっ  
たの.....？

んうっ.....

.....！！！！大丈夫ですよ！？

？ 姫.....。何で、泣いているんですか.....？俺のせいですか.....

.....。また、死んでしまったのかと思いましたわ.....！  
！私のせいで.....。もう、2度とあんな目には会いたくなくなっ  
たのに.....。

.....。すみません。俺のせいで、俺が姫を置いていってしまったから.....

確かにそのこともありますけど.....。

でも、俺、ピンピンしてますし！

.....。

姫.....？

本当に.....よかった.....

姫.....！ありがとうございます。心配してくれて。

あの.....

何でしょう？

「だって」「の続き、聞かせて下さる？

.....（かああああ俺は.....姫のことが.....

ちょっと待ったあ！！！！

んだよもう！！

よくもこの私の前で、その様なことを言えるなあ.....！

まだ、くたばってなかったのか！？

ふふふふ.....。このようなことにくたばる私ではない.....。

じゃあ、もう1発くらわしてやっか.....！姫は安全なところに隠れていて下さい。2度と姫に近づかないようにしますから。

(絶対に好きなやつ笑顔を守って見せる！)

おりゃああああああああああああ

!!!!!!

『ドツカ

ン!!!!!!』

キヤツ・・・・・・・・大丈夫でしょうか・・・?

はぁ・・・はぁ・・・はぁ・・・どうだ・・・!

そんな・・・・・・・・どうして・・・・・・・・?この私が、敗れる・・・・・・・・とは・・・・・・・・  
?!?

お前にはもう立つ力さえ残っていないだろう・・・・・・・・。さつきは無  
理矢理立っていたみたいだしな・・・。

・・・・・・・・!!ははは・・・・・・・・もう、駄目だ・・・・・・・・俺の負けだ・・・・・・・・。

そうやって人は成長するんだ。経験として心にしまっておけ。新し  
い道に進んでお前が普通に幸せにしてやれる人を探せ。相手もきつ  
とそれに答えてくれるはずだ。

まさか・・・・・・・・。この私がお前のようなやつにこんなことを言われる  
とは・・・・・・・・。不覚だな。

ひん死状態なんだから、そこで寝て休め。それと、もう2度と姫に  
近づくな!いいな!

わかったよ。もう姫には近づかない。赤の他人に戻るよ。ただ、最

後に教えてくれ。

何だ???

どうして、あそこまで姫を守ろうとする心が強いのだ？私にはまったく理解できん。

……！それは……。俺は、前に好きだったやつ笑顔を守りきれなかった。もう2度とあんな思いはしたくないし、してほしくない。それに、俺は姫が誰を好きであろうと、俺は、“姫のことが好きだ”。だから、守る。姫は笑顔が一番だから。

……えっ！……

……。そういうことか。ありがとう。お前からは沢山学んだ気がする。感謝するよ。

さ、回復したら、さっさと出て行けよ。どうせ、他の兵士たちもみねうち状態なんだから。

ああ。

ひっ、姫！？大丈夫ですか？怪我とかは……？

大丈夫ですわ。それより、あなたの方が疲れているのでは……？

えっ、ああ。まあ、大丈夫ですよ。

姫、ごめんなさい。私がこの様な事をしてしまったから、兵士たちをひん死状態にまで追いやってしまった……。本当に申し訳

ありません。もう2度と、姫には近づきません。

あなたは本当に大変なことをしてしまいました。その罪はちゃんと償ってもらいます。いいですね。

わかりました。

・・・死刑にはしませんから。

・・・！良いのですか？？こんな騒ぎを起こした私ですよ！死刑になってもおかしくないのに！！

私が決めることです。それに、あなたには新しい道に進んで、ちゃんとした人生を送ってもらいたいですから。

姫・・・・・・・・。ありがとうございます！！！！！！

姫、行きましょう。

ええ。

・・・・・・・・タッタッタッタツ・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・。

・・・・・・・・・・・・・・・・。

ひ、姫！

何ですか？

あの、俺、まだ言ってないのですが……。

ああ。あの時のこと……。じゃあ、聞きますわ。「だって」の続きはなんですか？

・俺は、姫のことが……“好きです”

………。待ってましたわ。その言葉を……。

えっ………？

ずっと、あなたがその言葉を言ってくれるのを待っていました。……。

(かあああああああ………)

お返事しますわ……。

(ゴクリ………)

私も、あなたのことが“好きです”

(シユウウ　　ン………おお！！た、種が芽を出した！！)

えっ………。姫は他のやつが好きなんじゃ………？

誰がいつそう言いましたか？私はずっと小さい頃からあなたのこと  
が好きだったのですわ。

えっ…………。

ふふふ…………おかしな顔…………。

えっいやっあの…………。

何、動揺しているんですの？全く…………。ふふふ…………。

いやあ…………。まさかそんな返事が返ってくるとは思わなかったもので…………。

ホント、おかしな子ね。昔から。

あはは…………。

そういえば、名前、聞いてなかったわね。

あっ、そういえば…………。

私の名前は姫ではなく、「アウィールス・フロル・セルバード」ですわ。

俺の名前は、奏楽希 歌瀬。

じゃあ、これからは名前で呼んでいいかしら???

いいですよ。じゃあ、俺は…………。

普通に姫でいいですよ。私の名前、長いですから。

はい。

じゃあ、戻りましょう。

ああ。

．．．．．タッタッタッタ．．．．．

．．．．．！月が綺麗ですね、姫。

．．．．．。

．．．．．姫？？

バサツ．．．シユウウウウ

ン！！！！！！！

ひ．．．．め．．．．？姫！！！！！！

一緒に行こう。

行ってくて、何処へ．．．．？

月．．．．。

「月」ってどつちやって．．．．！？

(シユウウウウウウウ)

か、階段．．．．！！？？

一緒に行こう。歌瀬。

あっ！！！！！

バサツ……シユウウウウ

ン！！！！！！

行こう、一緒に。

ああ。

(よし。種が芽吹いた。あいつもこつちにいた方が幸せだろう。……。おい！奏楽希歌瀬の戸籍をこつちに移せ！学校の退学届けを出してこい！奏楽希歌瀬を知っている奴らの歌瀬のことだけ記憶を消せ！……。歌瀬。俺はお前の父親として、お前をここまです導いた。後はお前自身で生きていけ。お前なら大丈夫だ。俺は、お前を信じてる。さらばだ……。我が息子よ……。)

こうして、姫と歌瀬は共に月に向かいました。

月に行った二人は一旦、国に戻り、生涯を共に暮らし、最後の時を月で暮らしたのでした。

おしまい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7311y/>

---

月の階段～成長の羽が開くとき～

2011年11月21日23時47分発行